

| | |
|--|---------|
| 実施日：7月4日（金）2校時 | |
| 教科等：特別の教科 道徳 | |
| 取組名：言葉の使い方を考えて生活しよう （資料「なんであかんのやろ」（『ほほえみ』令和4年度版） | |
| 対 象：2年生 | 実施場所：教室 |
| <p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット端末を介して習得する情報の特徴を理解し、差別を助長するような不適切な言葉があることに気付くことができる。 何気なく使った言葉が人を傷つけてしまうことを理解し、安易な言葉で誰かを傷つけないよう、人の気持ちを考えて行動する態度を身に付けさせる。 | |
| <p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入では、「携帯電話やタブレットを使って動画を見たことがあるか」という問いかけを行い、本時の資料と自分の生活経験とを結び付けて考えさせる活動を入れる。 展開では、資料の状況を把握するために、二つの手立てを行う。一つ目は、挿絵を黒板に掲示し、登場人物の表情や吹き出しから、場面把握の一助とすること。二つ目は、「自分だったらどう思う」と、自分自身と教材とをつなげる発問を行うこと。自分自身とつなげて考えにくい児童がいる場合には、他の児童の発言を黒板に残し、中心発問へと誘っていく。 後半では、インターネットとの正しい付き合い方や、日常生活での言葉の使い方についてこれからの生活で気を付けていきたいことをまとめる。 | |
| ウ 連携先：家庭 | |
| <p>エ 連携にむけての取組</p> <p>タブレット端末やゲームの使い方、言葉の使い方等、日常生活での教員の見立てや本時でつかんだ実態を、個別懇談で保護者の方へ伝え、夏休みの過ごし方に生かしてもらおう。</p> | |
| <p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <p>生活指導担当と情報共有し、夏休みの過ごし方についての指導に活用した。</p> | |
| <p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動への取り組み方 発表 ふり返り | |
| <p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット上でも、実生活においても人を傷つける言葉を使ってはいけないという意識をもつことができた。 インターネット上の言葉を安易にを使ってはいけないということを、2年生の児童なりに理解をし始めている様子があった。 | |
| <p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活だけでなく、家庭への啓発の方法を探っていく必要があると感じた。 まだまだインターネットで知った言葉などを友だちに言っている場面が見られるので、適宜言葉の意味を考えさせる指導を行っていきたい。 | |